

令和2年度第10回亀岡市総合計画審議会策定部会 議事要旨録

日 時：令和2年8月19日（水） 14：00～16：30

場 所：亀岡市役所 3階 302・303 会議室

出席者：鈴木部会長、川勝副部会長、青山委員、石山委員、岸委員、楠委員、坂本委員、
多胡委員、塚本委員、原委員、三宅委員

次 第：1 開会

2 議事

（1）基本構想（素案）について

（2）基本計画（素案）について

3 その他

4 閉会

1 開会

2 議事

部会長

- ・前は各部の部長にお越しいただき、そこで意見交換した結果が計画（案）に反映されたものと考えている。そろそろ最終段階であり、今後はできる限り、具体的な修正指摘をお願いする。

（1）基本構想（素案）について

事務局

—資料No.1 に基づき事務局説明—

A 委員

- ・SDGsについて西宮市の事例が参考資料として提示されているが、これは大切なことであり、どう亀岡市の計画に盛り込めばよいか。天理市の総合計画では、基本計画の各頁にSDGsとの関係を示している。一覧表だけでなく、各セクションに関連づけを示すのはわかりやすい。

部会長

- ・市民にもわかりやすい表示方法を考えてほしい。

事務局

- ・他都市事例等を参考に、表現方法について検討したい。
- ・まず西宮市の事例などを参考に、施策（基本計画の節）と17のゴールがどのように関連するかを整理することが必要と考えている。その上で、最終的な見せ方を考えたい。

B 委員

- ・基本構想では第3部の施策の基本方針ごとに対応するロゴを示すのもひとつの方法である。その上で、施策（基本計画の節）にも関連するゴールのロゴを配置すると丁寧である。西宮市の例でも課題と考えるのは、17のゴールと施策の組み合わせだけを示していること。例えば住環境も健康との関連がある、というように、17のゴールの下に169のターゲットがある。そのターゲットのいずれかが一致するなら、それは本来なら該当すると位置づけるべき。ぜひ169のターゲットもチェック（認識）した上で、両者の関係を示してほしい。

C 委員

- ・言葉の表現について、固有名詞には「」（カッコ書き）をつけるという説明もあり、ルールはかなり固まってきたと思う。文章表現のルールには今回のように明示するものもあれば、暗黙のルールもある。そのルールをきちんと整理しておく必要がある。
- ・例えば1頁にICTという表現があるが、ここに説明はなく、4頁に「ICT（情報通信技術）」という表現がある。説明をつけるなら、初出のところすべきだろう。その後についてどうするかは、ルールを決めていけばよい。文脈で判断する場合もあるだろう。
- ・英語＋日本語で紹介するのもひとつのルールである。4頁GIGAスクールも一般にはどういうものかわからないので、全体に丁寧な説明を考えた方がよい。
- ・府立スタジアムについても、府立スタジアム、京都府立京都スタジアム、京都スタジアムなど複数の表現があり、統一が必要である。計画をfix（確定）する前に、こうした点を固めておいた方がよい。

部会長

- ・議会説明前までには、ルール等を規定してほしい。

B 委員

- ・8頁の「KAMEOKA FLY BAG Project」も誰でも知っているものなのか。一般的なものでないなら、説明が必要。

C 委員

- ・言葉の説明は、どこかに一覧表で示す場合もあれば、各所に括弧（ ）で示す場合もある。そうした点も整理してほしい。

D 委員

- ・「KAMEOKA FLY BAG Project」は、パラグライダーで役目を終えた生地から型を切り取り、縫製してバッグを作るという活動である。

E 委員

- ・まだ知らない人も多いと思う。

D 委員

- ・SDGs は 5 頁、12 頁で別の方法で説明している。あちらこちらで説明してはわかりにくいので、初出箇所の説明することに統一してはどうか。

F 委員

- ・13 頁「4 だれもが安心して暮らせるセーフコミュニティ、多文化共生のまちへ」では、対象が外国人中心に見える。一方、21 頁では「年齢、性別、障がいの有無、国籍」を示している。13 頁でも丁寧に示す方がよい。
- ・24 頁のスポーツは「振興」を削除とのことだが、「スポーツ」だけでは表現として違和感がある。

部会長

- ・具体的にどのように変えればよいか。

F 委員

- ・基本計画 38 頁では「生涯スポーツ」という表現もあるが、アウトドア等も含むと考えられるので、例えば「スポーツ・レクリエーション」の方が対象を広くとらえられるのではないか。

部会長

- ・事務局で検討してほしい。

D 委員

- ・資料 1-2 の図面で、市域の枠の表現が異なるのが気になる。
- ・都市構造図で、文章で表現するものが図のどれにあたるのか、わからないものがある。また、国土軸とは何かわからない。文章と図が合致するようにしてほしい。

部会長

- ・文章に対応した図面に見直してほしい。

事務局

- ・今後、整理ができれば次回（9 月）の全体会では基本構想に入りたいが、整理がつかない部分があれば、本日と同様、別紙として提供させていただく場合もある。

G 委員

- ・スタジアムの呼び方は、統一するのがよいのか、各箇所で多様な表現にした方がよいのか、難し

いところ。また、命名権で名付けられた「サンガスタジアム by KYOCERA」もどこかで示しておいた方がよいのではないかな。

部会長

- ・基本的な表現については整理してほしい。「サンガスタジアム by KYOCERA」については事務局で検討してほしい。
- ・新型コロナの表現についても、表現の整理をお願いします。

A 委員

- ・人口見通しについて、天理市の総合計画では国立社会保障・人口問題研究所（以下社人研）の推計を途中段階で参照しているだけだが、亀岡市では9頁で社人研の推計をベースに、これを修正していくという表現になっている。社人研の人口推計には疑問があり、あえてそれを表現せずとも、姿勢として81,000人にしていくという表現でよいのではないかな。社人研推計をベースにすると、「そのベースは本当なのか」という意見が出てくるかもしれない。
- ・同じく合計特殊出生率について、天理市では1.5で固定しているが、これを亀岡市で1.8にする論拠を示すことは難しく、それよりも独自推計によって、移動人口の増減でみる方が現実的ではないかな。国の研究機関ではあるが、社人研の推計を引用すると、信頼性が損なわれる。

部会長

- ・個人的には社人研を参考とするのは問題ないと思うが、事務局で検討してほしい。

D 委員

- ・人口が減少傾向にあることは理解するが、そうした中で亀岡市としては、人口増加ばかりを求めるのではなく、交流人口を増やして活性化を図るという方向性を示している。あくまで第三者機関の見方を示したもので、国の機関の発表でもあり、ひとつの物差しとすることには問題はないのではないかな。

B 委員

- ・各市町村では人口ビジョン及び総合戦略を策定している。その人口ビジョンにおいては国が指針として社人研の人口推計をベースとしており、これは無視できない。また、例えば市議会が「何を根拠にしているのか」と指摘してきた場合、社人研ではこうでこのままではこうなる、それに対して計画によってこう（上乘せ）していくと説明するケースが多い。あまり社人研の推計を重視する必要はないが、ひとつの参考として、しかし施策の積み上げでプラスアルファをしていくという考え方、また、そこに4,000人の幅を持たせるという見通しにして、ちゃんと取り組まないとだめですよ、と説明する意味でも、こうした表現でよいと思う。

部会長

- ・計画において、社人研推計をベースに組み立てるケースは多い。何を信頼して組み立てるかについて意見は様々にあると思うが、あまり違和感はない。

A 委員

- ・最初の仮定が 77,000 人から始まるので、その論旨でなくてもよいのではないかという主旨で指摘した。

E 委員

- ・人口減少が進む中、減少緩和に止まらず、外から帰って来てもらうまちづくりをどこかに記載したい。若者が生まれ育った亀岡でそのまま暮らし続けるだけでなく、むしろ外の空気を吸ってくることを後押しし、そしていずれ帰って来てくれるような、魅力的なまちであってほしい。魅力あるまちなら、新たに住みたいという人も現れるだろう。それを表す若者回復率を表現してほしい。
- ・例えば 3 頁の最終段落で「…進行している中で、若い世代に選ばれる町、帰ってきたくなる町を目指すべく、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりや雇用創出に力を入れると共に、年齢や性別に関係なく幅広く活躍することより、全世代で支え合える社会を創ることが求められています」。
- ・同じく 9 頁最後の文章で「…、子どもを産みたい人が安心して産むことができる環境を整えて合計特殊出生率を引き上げていくと同時に若者回復率の目標値を設定して、長期的な視点で取組を進める必要があります」。

H 委員

- ・9 頁 2 行目の「…令和 12（2040）年には…」は令和 22 年の間違いだと思う。修正を。

部会長

- ・3～6 頁について、各項目で最後に「本市としても…」という記載があるが、「3 情報通信技術の進化と普及」「7 with コロナ」ではこの記載がないのでは。

事務局

- ・「3 情報通信技術の進化と普及」の文章中に「…本市においても…」の表記がある。「7 with コロナ」では直接的な表現はないが、最後のセンテンスの内容がこれにあたるので、表現を検討する。

部会長

- ・了解した。

D 委員

- ・そこでいう「本市」とは、亀岡市全体のことか、それとも市役所のことか。「6 産業を巡る環境変化」では「先端技術を積極的に取り入れる」という表現があるが、これは行政が行うというより、業界が取り入れるのを支援・協働するといった意味だと思う。

部会長

- ・「4 常態化する自然災害や感染症等のリスク」では市役所主体のイメージ、「2 地域に波及する人・モノ・情報の国際化」では市全体の方針や取組のようにイメージされる。
- ・「6 産業を巡る環境変化」は「先端技術の積極的な取り込み（活用）を推進（促進）するとともに…」という表現が適切かもしれない。事務局で検討してほしい。
(ここで、多胡委員の意見について資料配布)
- ・若い世代に選ばれる、帰ってくるという表現は、あってもよい。特に「選ばれる」は都市像にも使われている言葉であり、それを受けたものという理解ができる。

B 委員

- ・提案に賛成する。

部会長

- ・事務局で検討してほしい。ただ、9 頁（人口）での表現は頑張りすぎかもしれない。

E 委員

- ・数値目標を立てることで、本気度を示すことができると考える。ただ「止まってほしい」という気持ちを示すだけでなく、「戻ってきたくなるまちにしています」という姿勢を示すことが必要ではないか。

部会長

- ・計画全体として、目標値を設定する項目全てに「目標値を設定して取り組む」とは書けない。こういう目標値を入れるべきかどうか、進行管理部会で検討してほしいという話になる。

事務局

- ・豊岡市の若者回復率という考え方はよいと思うが、亀岡市では10歳代で進学、20歳代で就職のため市外への転出が加速する一方、乳幼児数は豊岡で減少、亀岡で増加、つまり亀岡では子育て世代が転入しているという特性があり、人口変化の傾向が全く異なる。回復率を数値化した場合、どんな施策を打ち出せば、その傾向を変えるほどの効果があるかが想定できず、それよりも子育て世代に帰って来てもらい、新たな子育て世代に住んでもらうという方が現実的ではないか。

部会長

- ・現実問題としては、そうだろう。

E 委員

- ・どこに住むかという選択をする時、地元に戻るという確率が高い。その時期が家族をつくる前か、後かということはあるが、少なくとも亀岡で生まれ育った子どもには、いずれ住みたい、帰りたいと思ってもらえる取組を進めてほしい。

部会長

- ・回復率という数値目標を掲げるかどうかは、進行管理部会でも検討してもらおう。本部会としては、一度、市外に出た人にも戻ってもらいたいという内容を表現することとしたい。

（２）基本計画（素案）について

事務局

—資料No.2、No.3 に基づき事務局説明—

部会長

- ・これまでの意見を踏まえた修正をしてもらい、かなり良くなった。
- ・29 頁（健康づくり・医療・感染症対策）に「新型コロナ」の表現がないので、どこかに記載してほしい。

事務局

- ・法律表現との関係があり、新型インフルエンザという表現になっている。担当課との調整において、こうした表現にしてほしいということになっている。

部会長

- ・計画内容でコロナという表現はないのか。

事務局

- ・13 頁（防災・消防・危機管理）の現状・課題、15 頁（同）の「5 危機管理体制の充実」、20 頁（子育て支援）の「2 保育・放課後児童会の提供体制の充実」等に記載がある。

部会長

- ・基本構想に課題として記載するのに、健康づくり・医療・感染症対策の項目に記載がなくて、after コロナ対策として十分なのか。

B 委員

- ・29 頁「3 感染症予防対策の推進」に何らかの表現をしてはどうか。

部会長

- ・担当課に委員会意見として再度伝えて、検討してほしい。
- ・after コロナ対策としては、何か情報関連の施策があってもよいのではないかな。現在、該当する事業がないのだと思うが、例えばテレワークの推進等を位置づけられないかな。

事務局

- ・テレワークについては10頁（コミュニティ・市民協働・移住・定住）に取組の支援を位置づけている。

部会長

- ・「after コロナ社会をにらみ…」という表現を追加してはどうか。

C 委員

- ・8、9頁（コミュニティ・市民協働・移住・定住）には、基本構想の都市構造に出てくる「地域コミュニティ核」の位置づけがない。都市構造で位置づけし、それをどう展開するかがこの部分には必要ではないかな。
- ・after コロナでワーケーション（「ワーク」と「バケーション」を組み合わせた造語。旅先で仕事をする、働きながら休暇をとること）の考え方が言われ始めた。都市近郊にあつて温泉を有する亀岡市はこれに適しているのではないかな。10頁（コミュニティ・市民協働・移住・定住）等で位置づけしてはどうか。
- ・亀岡城については、「亀岡城」「亀岡城址」の2パターンの表現がある。通常は「亀岡城址」だろう。丁寧に言うなら、「丹波亀山城址」が正式名だろうか。一般には亀岡城址でわかるのかもしれないが、表現としてはマイナーである。

A 委員

- ・コロナについては、基本構想6頁に項目立てしているが、基本計画は各課からの積み上げで作成しているので、よく読めばいくつか出てくるという程度に止まっている。企画部門でこれらの施策を抽出し、項目立てをすべきではないかな。

部会長

- ・可能なら、せめて火葬場（第7章／第6節）と同程度には書いてはどうか。事務局で検討してほしい。全てを網羅する担当課はないが、計画には位置づけたい。

事務局

- ・当初、with コロナ、after コロナがここまでのことになるとは想定されなかった。4～5月ころから社会経済への影響も長期化してきた。今後、どこまでこの影響が続き、また広がるのか、

まさに現在進行中であり、書き込みが十分でないところがあるかもしれない。京都府も計画の見直しを示唆し、予算化されたという段階であり、こうした情勢をみながら、継続的に検討していきたい。節レベルで位置づけるのは現段階では難しく、次の段階で考えたい。

- ・after コロナにおけるテレワークについては、移住・定住施策として追記しており、コロナによって流れが変化している旨は該当部分の現状・課題で対応していきたい。
- ・9月3日に予定している中間報告段階では、まだ先が見えない部分もあり、最終的に議案とする段階まで、修正できるようにしておきたい。

E 委員

- ・7頁（男女共同参画）の「女性活躍推進」は10年後までこのままでよいのか。女性にとらわれず、むしろダイバーシティ（多様な人材を登用・活用し、多様な働き方を受容していくこと）という考え方にしていくなければいけない。

G 委員

- ・60頁（林業）の現状・課題で「亀岡市猟友会」は「亀岡猟友会」ではないか。
- ・42頁（地球環境・省エネルギー）「2 低炭素化のまちづくり」における再生可能エネルギーには、木質バイオマスも入れておくべき。
- ・12頁（セーフコミュニティ）の現状・課題2行目の「セーフコミュニティ及び、」は必要ないのでは。

A 委員

- ・52頁（工業）「1 企業誘致の促進」－「企業立地への支援」の内容で、優遇措置の要件緩和とはどういうことか。規制していることについての対策なら、規制の緩和ではないか。

部会長

- ・恐らく優遇措置が対象としている企業の規模や投資額、地元雇用等の条件を広めて、より幅広い案件を対象にするということだろうが、表現をもう少しわかりやすく整理してほしい。

F 委員

- ・38頁「スポーツ」について、まるごとスタジアム構想はよい取組だと考える。ただ、スポーツツーリズムもこの項目に含まれるなら、節のタイトルは「スポーツ・レクリエーション」等とした方が、より合致するのではないか。また、39頁「『亀岡まるごとスタジアム構想』の策定と推進」の内容にある各種スポーツも、各種スポーツ・レクリエーションとすれば、様々なアクティビティ（活動）も対象となる。

部会長

- ・事務局で検討をお願いします。

事務局

- ・「レクリエーション」には幅広い娯楽を含む印象があり、行政としては表現することに感覚的な心配がある。リフティング、カヌー、パラグライダーなどは、スポーツでもあり、娯楽でもあるが、体を動かして楽しむことをアウトドアスポーツと捉えており、それも含めてスポーツで括れるのではないかと考えている。

F 委員

- ・レクリエーションは確かに幅広いが、身体活動、アウトドア、ツーリズムも含まれる。節タイトルにレクリエーションを表現するのが行政的に難しいことは理解できる。タイトルが難しければ、39 頁にレクリエーションという言葉を入れてもらえば、スポーツツーリズムや遊びの一部も含めて考えられるのではないかと考えている。

部会長

- ・事務局で検討してほしい。スポーツを別の表現にできればよいが。

G 委員

- ・スポーツは野球、サッカー、ラグビーなど、イメージされる対象が限定的に感じる。遊び心も含まれるよう、野外（屋外）レクリエーションという言葉が入ってもよい。実際には広がりがある分野である。

F 委員

- ・フィジカルレクリエーションという言い方もある。

部会長

- ・確かに「スポーツ」は狭い世界のように感じられる。フィジカルや野外など、表現方法を検討してほしい。

I 委員

- ・30 頁（学校教育・就学前教育）について、人権教育はあるが、平和教育が位置づけられていない。
- ・32 頁（学校教育・就学前教育）において、「学校図書館の充実への支援」とあるが、具体的に子どもたちが図書館をどのように使い、あるいはどのように関わっていくのか、もう少し示してほしい。
- ・危機管理に関連して、先日の降水で段差のある身近なところが滝のようになっていた。これに関して行政に問い合わせたところ、実際に被害が出なければ何の対応もできない（しない）ようだった。こうした現場の情報が行政内でどのように共有・伝達できているのか、また全体だ

けでなく、まず問い合わせ等に対応する各部署の危機管理能力がどうなっているのか、もっと強化する必要があるのではないかと、危機感を抱いた。

部会長

- ・ 9 頁（コミュニティ・市民協働・移住・定住）「3 市民協働活動の推進」において、かめおか市民活動推進センターの記載がないが、どこかで充実等の方向を示してほしい。
- ・ 69 頁（水道・下水道）について、水道では安全とともに「おいしい」を入れてほしい。
- ・ 52 頁（工業）「1 企業誘致の促進」において、対象をベンチャー企業ではなく「環境関連企業」等とすれば、基本構想等とも合致するのではないかと。

副部会長

- ・ 基本構想で謳っている SDGs だが、基本計画ではどう落とし込んでいくのか。

部会長

- ・ 文言として基本計画に SDGs が入っているか。もしないなら、記載する必要がある。SDGs 未来都市として頑張るという表現がどこかでできないか。

B 委員

- ・ 各節に対応する SDGs のゴールロゴを入れるだけでも、意識していることがわかる。

事務局

- ・ 全体に関わるテーマであり、ここに書いている、と限定するものではないと理解している。
- ・ 例えば 8 章のどこかに書くというより、SDGs と基本計画の関連性がわかるようにゴールのロゴを配置するという方法は考えられる。また、基本計画の冒頭部分に基本計画全体と SDGs のゴールとの関係性を示すことができるような資料を提示できないかと考えている。冊子としての見やすさやデザインの問題もあり、全項目で表現すると煩雑になるかもしれない。
- ・ 基本構想、特に重点テーマと基本計画との関係を示す資料についても、後日、整理したい。
- ・ 本日のご意見を踏まえ、次回審議会（全体会）までに可能な部分は修正するが、すぐに反映できるものと、内部の調整等が必要なものがある。次回審議会までは、まず部会長と調整させていただくということでよい。

部会長

- ・ 言葉の表現等については、できる限り修正してほしい。担当部局等との調整・相談が必要な部分や SDGs、新型コロナに関する部分については、検討中ということでしょうか。
- ・ 当面、9 月 3 日の会議までは部会長預かりということでしょうか。

ー各委員了承ー

部会長

- ・パブリックコメントの後にも審議会は行われるので、改めて調整課題については議論したい。

事務局

- ・本日も多くの意見をいただいております、反映が難しい部分等については、パブリックコメントの後に修正等を行うものがあることをご了承願う。中間報告後、議会からの意見を反映していくのも同じタイミングとなる。

部会長

- ・そうした方向で進めてほしい。

3 その他

事務局

- ・本日も長時間の議論をいただき、感謝する。ご意見については、できる限り迅速に調整していきたい。
- ・中間報告は本日の資料がベースとなることをご理解いただきたい。

4 閉会

以上